

きらりんエンジェルズ



「きらりんエンジェルズ」は、子育て中でも自分らしく自分をレベルアップしたいと考える有志が集まり、平成15年(2003年)に結成しました。

マジック隊3人、楽器隊5人(ピアノ、クラリネット、サクソ、歌)の8人で、“生の芸”を発表する舞台づくりに取り組んでいます。固定の活動場所はまだまだありませんが、茨木市内の公共施設(上中条青少年センターなど)を利用して練習しています。

マジックのネタは、ローブを使ったものから箱マジックまで数種類あります。曲のレパートリーは、ミッキーマウスマーチなど親しみのある曲からアベ・マリア(グノー)まで約10曲あります。芸のジャンルは違いますが、お互いにサポートしています。

子どもがいるからできない・・・ではなく、子どもがいる私たちだからこそできる芸を目指し、その芸をとおして、観客と出演者が楽しみを共有できる舞台を作っていきたいと考えています。

また、楽器隊の演奏レベルをあげたい、子どもといっしょにクラシック音楽を聴きたいとの思いから今秋、クラシックを中心とした演奏会に挑戦しようと企画および練習をはじめています。

現在、「きらりんエンジェルズ」の出演依頼を受け付け中です。今までは幼児を対象とした舞台を作ってきましたが、高齢の方の施設や子ども会などの行事に参加し、多世代の方々と芸をとおして交流させていただき、私たち、「きらりんエンジェルズ」も成長していきたいと思っています。お楽しみ会などにいかがですか？

連絡先 近藤 由恵 (643) 1726

芙蓉の会



私たち耳原小学校PTAのコーラスOBが童謡を歌う会として「芙蓉の会」を平成12年(2000年)に立ち上げ、「歌うことで何かボランティアができればいいね」ということで、翌年から社会福祉協議会のボランティアセンターに登録しました。これまで高齢者の施設やデイケアサービスセンターへ4回訪問し、また「みんな集まれ!!ボランティアinいばらき」にも参加しました。

高齢者施設などには“慰問する”という形ではなく、“ふれあいを楽しもう”という考えなので、毎回、曲や紙芝居はどんなものがよいのか、手遊びはすぐできて楽しいものは何かなど、メンバーと試行錯誤をしながら企画に頭を絞っています。

皆さんが私たちの歌を聴いて楽しんでくださっている様子を見ると、良かったな、またがんばっていかねればと励まされます。

平成14年(2002年)からは、私たちの地区である耳原地区敬老会にも賛助出演させていただいて、高齢の方々といっしょに“なつかしのメロディー”などを楽しく歌っています。そのための練習を耳原公民館で毎月第2、第4の月曜日の午後に行っています。

童謡というつつきやすさやパートに分かれず斉唱する形、ボランティアにもかかわれることが受け入れられたようで、メンバーは少しずつ増えて21人になりました。

最近では唱歌やニューミュージックも少し入れて、幅広く楽しく、また、声を出すための柔軟体操や発生練習もやりながら、歌い方のみならず“歌の心”を感じられるようにいっしょけんめい練習しています。メンバーもボランティア活動に意義を感じて、反省会でも「よい経験や学習になりました。これからはがんばりましょう」という声があがっています。

まだまだ未熟ですが、これからも歌でボランティアにかかわれるこの会を大切にしていきたいと思っています。

連絡先 上村 智子 (643) 7675

市民インタビュー



第19回

シンガーソングライター
やま なか
山中るいさん

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見てくるその豊かな人生に、きっとあなたも勇気づけられることでしょう。

シンガーソングライターとして活躍されている山中るいさん。さまざまなジャンルの歌を歌いこなす山中さんが笑顔で語る音楽の魅力とは……。



音楽のジャンルは何ですか。

幼い頃から心地よく耳にしてきたメロディーに感化され、アンディ・ウィリアムスやビートルズ、カーペンターズの曲を好んで聴いていました。それらを自分のものになりたいと思い、彼らのヒット曲にチャレンジし、やがては映画音楽やアニメの主題歌などもレパートリーに入りました。私の場合、一つのジャンルに絞ることはしないで、ポピュラーやジャズ・スタンダード、歌謡曲なども心地よい曲を選んで歌っています。

どんな活動をされてきましたか。

若い頃、グループで歌手活動をしていました。平成11年(1999年)に改めて新人「山中るい」としてデビューし、テレビやラジオの各AM・FM局にキャンペーンを兼ねて出演しました。それから市内のホテルでのショーに出演したり、またボランティアとして市民会館でチャリティーコンサートに参加したりしました。「山中るい」は芸名で、CDの録音依頼があった時に付けました。「山中」は母方の姓で、「るい」はその時の楽曲の歌詞に出てくる「涙(なみだ・るい)」からとりました。

どんな苦労がありましたか。

家族の深い理解があったからだと思うと、苦労より先に感謝の念が強いですね。デビューして6年目を迎えますが、これからの方が大変かもしれません。

音楽人生でよかったと感じていることは何ですか。

音楽を通じて集う多くの人たちとの出会いがありました。プロ・アマチュアに関係なく、音を出したい人たちへのサポート役を務めながら、国内外の有名ミュージシャンなどと音楽の話題に花が咲いたりしました。たまたま居合わせた人が、私の歌に感動し涙してくれた場面では、かすかな自信と使命

を改めて感じました。私の歌に耳を傾けてくれて「癒される」と評価されると、私もホックリします。音楽は自然に人との関係を濃いものにしてくれます。

聴く人に伝えたいことはありますか。

大きさに何かを伝えたいという程のものはないですが、聴いてくださる方のハートに少しでも届いたらと思います。1年前に仲間から「週1回でも自分のステージをやったら」との声がかかり、気軽に聴いていただけるスタイルで楽しめるライブを無料でやっています。このライブはこれからも続けていくつもりです。夢を持つ若い方には、くじけずにそれぞれの目標に向かって進んで行ってほしいですね。

今後の夢・目標などがありますか。

近々刑務所での慰問ステージがありますが、どんな評価をされるのか歌い手にとっては高いハードルになります。声をかけてもらう機会を得たことはありがたいことです。今後も皆さんの要望がある限り、歌を歌っていきたいと思います。

山中さんにとって「生涯学習」とは何ですか。

興味があって時間と余裕があれば、何かやってみたいと思う人は多いと思います。時間と余裕があまりなくても、思いついた時に少しでも時間を見つけてそこからスタートすれば、「生涯学習」につながるのではないのでしょうか。私もテレビやラジオを通じて歌うだけでなく、人々との出会いの中でのつながりを大切にしていきたいと思っています。

「母が大好きだった」という唱歌「この道」を、小さい頃バイオリンでお母さんに聴かせたという話を聞き、山中さんの人柄がうかがえました。 担当：東實 野間

エッセイ わたしの時間 第13回

退職してからおよそ一〇五、一九二時間(十二年)の年月が過ぎていきました。これという事柄に集中したこともなく、特別な趣味があるわけでもなく、以前の延長で、数年間ほど以前と同じ仕事をしながら毎日無計画な日々を過ごしていたように思います。そんな中である時「退職後の人生で自分は何をしようと思っているのか?」「自分の趣味・特技って何だろうか?」「自分が集中してできることは?」とあれやこれやと考えている時、新聞広告に「やさしい手彫りガラス装飾講座」の案内を見つけました。早々に見学・体験学習をさせてもらいました。教室に入った途端「あれっ」と思いました。それは受講生が女性ばかりで男性がいらないことでした。しかし、いったんやってみようと思ったことです。それから思い切って入会し、丁寧に教えていただき、今でも手彫りガラスの魅力にとりつかれて、時々お皿やコップなどにガラス絵を描いて楽しんでます。教えられることでわたしの時間に趣味の手彫りガラスのページがプラスされ、人生の楽しみが定着していくことに喜びを感じています。

金原 菊男